第三次
占冠村読書活動推進計画

令和７年３月

占冠村教育委員会

はじめに

読書は、知識を深め、想像力を育み、豊かな心を育む大切な活動です。多様な情報があふれる現代において、主体的に本と向き合い、読書を楽しむことは、子どもから大人まで誰にとっても価値のあるものです。

占冠村では、これまで「第一次占冠村読書活動推進計画」「第二次占冠村読書活動推進計画」に基づき、図書室や学校、地域のさまざまな場面で読書活動の推進に取り組み、すべての村民が読書に親しめる環境づくりを進めてきました。その結果、多くの村民が読書を楽しむ機会を持ち、読書に親しむ習慣が少しずつ広がってきました。これらの取り組みをさらに発展させ、より一層充実した読書環境を整えるため、村民へのアンケート調査の実施や図書専門委員のご意見をいただきながら、令和7年度から令和11年度を計画期間とする「第三次占冠村読書活動推進計画」を策定しました。

本計画では、これまでの取り組みをさらに発展させ、乳幼児から高齢者まで誰もが生涯にわたって読書を楽しめるよう、家庭・学校・地域が一体となった取り組みを推進します。また、デジタル技術の進展を踏まえ、新しい読書の形を模索しながら、村民の多様な読書ニーズに応えていきます。そして子どもたちの読書週間の定着をはじめ、大人も含めた幅広い世代への読書の促進、地域全体での読書文化の醸成を目指し、具体的な施策を展開します。

本計画を通じて、村民の皆さんが本とふれあう喜びを感じ、読書の輪がさらにひろがることを願っています。

目次

第1章 基本的な考え
1 計画趣旨……1
2 計画期間……1

第2章 家庭における読書活動の推進……2

第3章 学校・保育所における読書活動の推進と読書環境の整備……3

第4章 地域における読書活動の推進と読書環境の整備……4

参考資料 図書アンケート集計結果……6

第1章　基本的な考え

1　計画趣旨

平成13年12月に「子どもの読書活動の推進に関する法律」が施行され、この法律により国と地方公共団体は、子どもの読書活動の推進に関する計画を策定・公表することが定められました。

北海道教育委員会では、平成15年11月に第一次となる「北海道子どもの読書活動推進計画」が策定されて以来、道内の子どもたちがあらゆる機会とあらゆる場所において、自主的に読書活動を行うことができるよう環境整備を進めており、現在は第五次計画（計画期間令和5年度～令和9年度）まで策定されています。

占冠村においても、平成26年に「占冠村読書活動推進計画」を策定し、その後令和2年度から令和6年度までを計画期間とする「第二次占冠村読書活動推進計画」を策定、子どもの読書環境に関する取り組みに加え、住民だれもが自主的に読書活動を行えるよう環境整備を進めてきました。読書活動は、知識を深め、想像力を育み、心を豊かにする大切な活動です。

この計画は、第一次計画、第二次計画の趣旨を引き継ぐとともにより一層充実した読書環境を整えるため、前回計画策定後に更新された国、道の各種計画、指針等との整合性を図りながら「占冠村読書活動推進計画」の第三次計画として策定するものです。

2　計画期間

計画の期間は令和7年度から令和11年度までの5年間とします。計画期間内においては、占冠村社会教育委員の会議や公民館図書専門委員の会議に状況を報告し、会議での意見を踏まえて、効果的な計画の推進に努めます。

第２章　家庭における読書活動の推進

子どもたちが本に親しみ、読書を楽しむ環境を整えることは、生涯にわたる学びの基盤を構築する大切な取り組みです。

家庭は子どもが最初に出会う学びの場であり、読書習慣の形成において重要な役割を担っています。保護者が子どもと一緒に本を読み、読書の楽しさを共有することで、子どもの読書意欲を高めます。また、家庭内の読書の時間や環境を整えることで、子どもの読書習慣の定着につなげていきます。

子どもたちが家庭での読み聞かせなど本に親しむことを通じて、読書に対する興味や関心を引き出すことができるよう、家庭への啓発活動に努めます。

また、読書を通じ家族間のコミュニケーションを深めることにより、子どもの表現力や理解する力を育てることにつながることなど、発育段階における読書の重要性についても情報提供し、保護者の読書活動への理解を図ります。

取り組み

① ブックスタート事業の推進

乳幼児検診時に、赤ちゃんと絵本を通して行うコミュニケーションの大切さや楽しさを伝えながら、読み聞かせのアドバイスなどが入ったブックスタートパックを配布します。

② 読書の習慣化に向けた環境づくり

家庭は、子どもたちが読書習慣を身につける最初の場であることから、家庭での読み聞かせを推奨し、幼少期から本に触れる機会を増やします。保護者向けに家庭での読み聞かせの効果やコツを学ぶ機会を提供し、読書活動への理解の促進に取り組みます。

③ 子どもが本に親しみ楽しむ活動の推進

「読書週間」や夏休みの読書キャンペーンなど、子どもが楽しみながら本と関わることができるイベントを実施します。また子ども向けの講演会やワークショップを開催し、本を通じた創造的な体験の場を提供します。

第３章　学校・保育所における読書活動の推進と読書環境の整備

幼児期からの読書習慣は、言語能力や想像力の発達に寄与します。幼少期から本に親しむ機会を増やすため、図書室や保育所、学校と連携し、読書活動推進の取り組みを進めます。

保育所では、絵本の読み聞かせや紙芝居などを通じて、子ども達が本に親しむ機会を提供することが求められます。

学校は子ども達の日常生活の大部分を占める場であり、読書活動の推進において中心的な役割を果たします。休み時間やホームルームでの読書時間を確保し、読書指導の充実に取り組むことが大切です。

また、保育所や学校の図書室の充実を図り、子ども達が興味を持つ多様なジャンルの本をそろえることで読書への関心を高めます。

取り組み

① 移動図書を利用した絵本の貸出し

保育園児が本に親しみながら保護者とのコミュニケーションを十分に行えるよう、家庭向けの貸出を目的とした保育所移動図書を実施します。

② 保護者への啓発活動

保護者が参加する行事などを利用し、読書の大切さや読み聞かせがもたらす効果を伝えていきながら、家庭と連携した読書習慣の定着を図ります。

③ 読書習慣の定着を目指した指導の充実

朝読書など学校全体で児童・生徒の読書習慣につながる取り組みを継続して行います。

④ 読書への意欲を高める活動

公民館図書室からの移動図書を利用し、学校での図書資料の充実を図り、児童・生徒の読書の幅が広がるよう工夫した指導を行います。

⑤ 発達段階に応じた適切な支援の実施

学年や個々の習熟度にあった支援を行うため、公民館図書室と連携していきながら、図書の整備ときめ細やかな指導に努めます。

⑥ ボランティアを活用した読書活動の推進

家庭と地域が一体となった読書活動を支えるため、学校支援図書ボランティアなど地域住民と協力し読み聞かせなどを行い、子ども達の読書活動がより楽しく充実したものとなるよう、学校支援地域本部をはじめとした地域住民と~~の~~連携した取り組みを進ます。

第4章　地域における読書活動の推進と読書環境の整備

公民館図書室は、地域住民が気軽に利用できる読書の場としての役割を担っています。子どもから高齢者まで、幅広い世代が利用できる蔵書の充実を図り、多様なニーズに応えることが望まれます。

季節やテーマに合わせた特設コーナーを設け、利用者の興味を引く工夫を行い、障がいのある方や高齢者にも配慮したバリアフリーの環境を整備し、誰もが利用しやすい図書室をめざします。また、利用者が快適に読書できる環境を整えるため、照明や座席の配置、暖房などの設備を適切に管理していくことが求められます。

地域全体で読書活動を推進していくことは、豊かな読書環境の構築に繋がります。読み聞かせや読書会などのイベントを開催することで、地域住民が多様な本と出合う機会を提供します。また図書室を活用し、誰もが気軽に本に触れられる環境を整備します。

取り組み

① 読書推進イベントの開催

参加者のニーズにあった図書まつりやブックフェスティバル等を実施し、図書室が住民にとって魅力ある利用したい施設となるよう取り組みます。

② 移動図書の実施

小中学校及び保育所、学童保育へ移動図書・一括貸出を行い公民館図書室にある蔵書の有効活用に努めます。

③ 定期的な図書情報提供資料の発行

新刊やおすすめ本の情報をまとめた「図書だより」を毎月発行し、図書室や読書に興味や関心を持ってもらえるような環境の整備を行います。

④ 沿線市町村相互利用の促進と道立図書館支援事業の利用

富良野沿線5市町村による図書館(室)の相互利用を継続していきます。また道立図書館の市町村支援事業を利用し、図書室運営の改善と機能の充実に努めます。

⑤ 図書ボランティアの活用と育成

学校支援図書ボランティアをはじめ地域住民から協力を得ながら図書を通じた地域活動の充実を図ります。また、図書に関する様々な情報提

供を通して新たな地域人材の発掘と育成に努めます。

⑥図書職員の資質向上

図書専門委員の研修への積極的な参加や道立図書館等との連携や助言を通して、委員個々のスキルアップを図ります。

⑦ 誰もが利用しやすい図書室環境の整備

小さな子供連れや、小中学生、高齢者、外国人等、誰でも安心で快適に利用できる図書室実現のため、資料や設備の充実、工夫したコーナーの設置などに努めます。

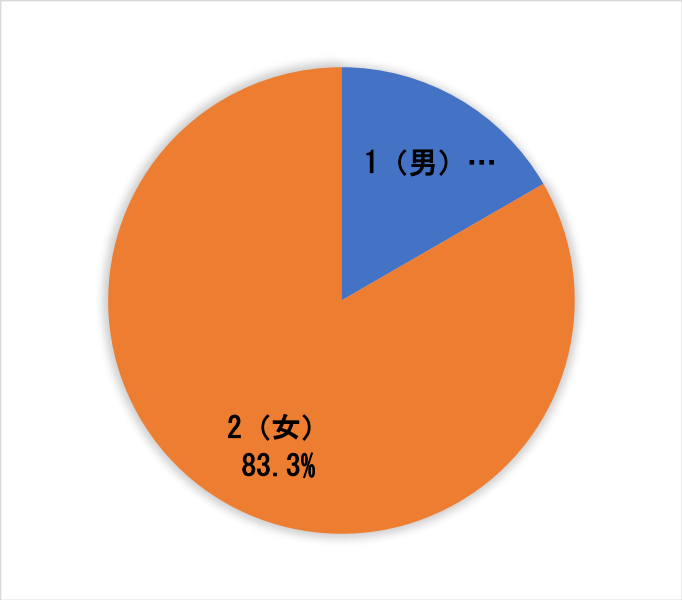
令和６年度

図書アンケート実施結果

～概　要～

■実施期間：2025 年 2 月 12 日～3 月 1 日
■実施目的：占冠村第二次読書活動推進計画策定の参考資料とし、今後の図書室経営に繋げる
■実施方法：①中央・トマム図書室にアンケート用紙と回収箱を設置した他、高齢者大学、子ども会役員に回答を依頼。
■アンケート回収数：30

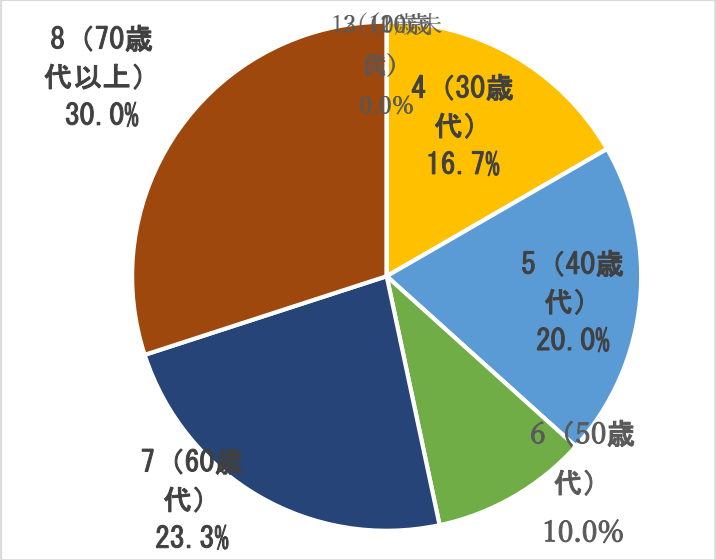
■Q1　あなたの性別（せいべつ）は？



項目	回答数	割合
1(男)	5	16.7
2(女)	25	83.3
無回答	0	0.0
合計	30	100.0

回答者の内訳は全体では男性約２割、女性約８割となっています。

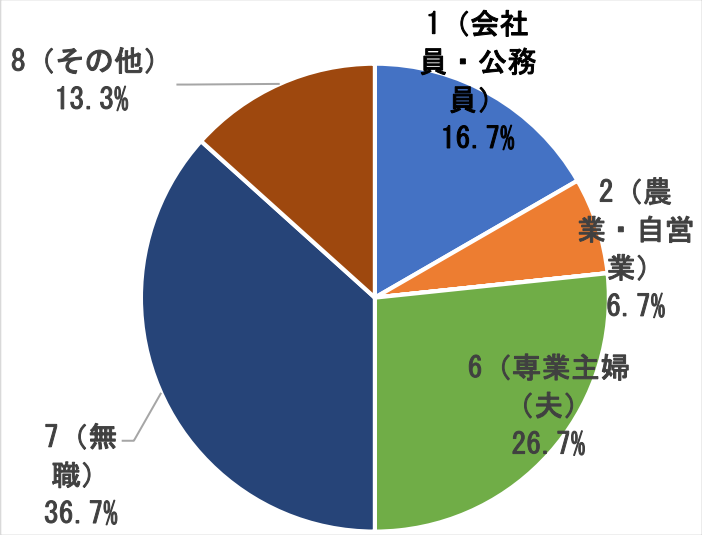
Q2　あなたの年齢（ねんれい）に〇をしてください



項目	回答数	割合
1(10 歳未満)	0	0.0
2(10 歳代)	0	0.0
3(20 歳代)	0	0.0
4(30 歳代)	5	16.7
5(40 歳代)	6	20.0
6(50 歳代)	3	10.0
7(60 歳代)	7	23.3
8(70 歳代以上)	9	30.0
無回答	0	0.0
合計	30	100.0

子ども会役員や高齢者大学へ回答依頼したため、子どもや若者からの回答がなく、30 歳代以降の年齢に偏る結果となりました。幅広い年齢の意見を拾えるようアンケートの実施方法を検討する必要があります。

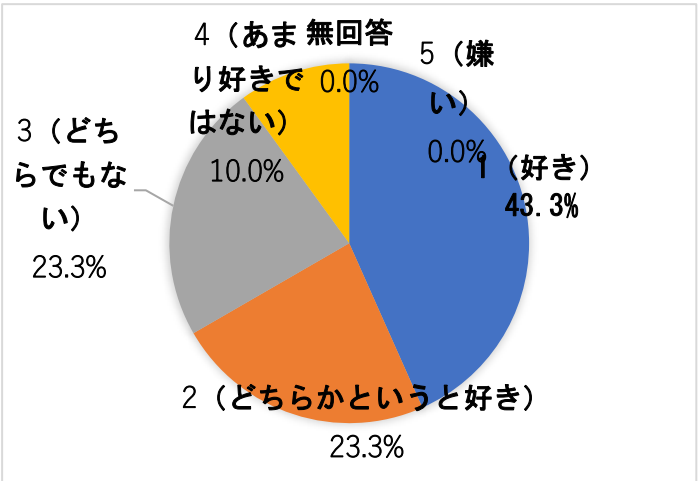
Q３　あなたの職業（しょくぎょう）に〇をしてください



1(会社員･公務員)	5	16.7
2(農業･自営業)	2	6.7
3(小学生)	0	0.0
4(中学生)	0	0.0
5(高校生･大学生)	0	0.0
6(専業主婦(夫)	8	26.7
7(無職)	11	36.7
8(その他)	4	13.3
無回答	0	0.0
合計	30	100.0

全体では無職の方が 36.7%と最も高くなりました。次いで専業主婦（夫）26.7%、会社員・公務員 16.7%となっています。

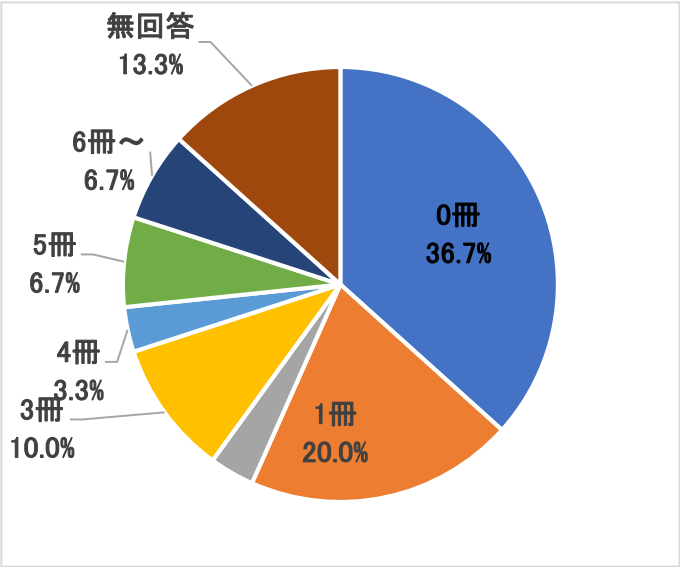
Q4　あなたは本が好きですか？



項目	回答数	割合
1(好き)	13	43.3
2(どちらかというと好き)	7	23.3
3(どちらでもない)	7	23.3
4(あまり好きではない)	3	10.0
5(嫌い)	0	0.0
無回答	0	0.0
合計	30	100.0

「好き」、「どちらかというと好き」と回答した人を合わせると全体で 66.6%に上りました。前回調査では 94%でしたので、5 年前に比べ本に対する関心が低くなっているといえます。

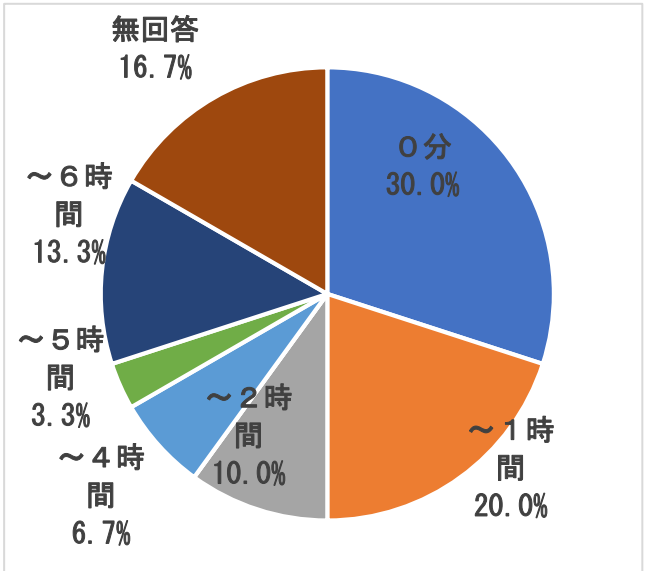
Q5　1か月にどのくらい本を読みますか？（マンガ・雑誌を除く）



項目	回答数	割合
0冊	11	36.7
1冊	6	20.0
2冊	1	3.3
3冊	3	10.0
4冊	1	3.3
5冊	2	6.7
6冊～	2	6.7
無回答	4	13.3
合計	30	100.0

前回調査時に0冊と回答した人は 6.0%でしたが、今回調査では 36.7%であり、読書離れが急速に進んでいることがうかがわれます。

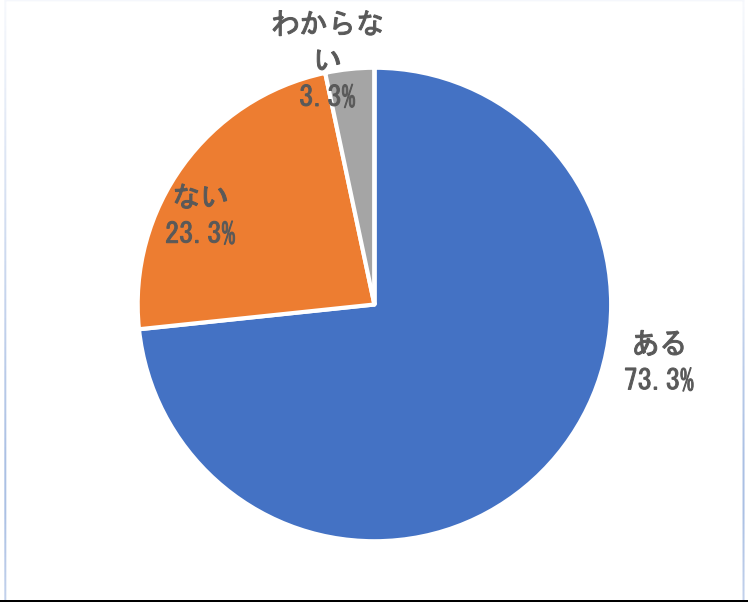
Q6　最近1週間で本を読んだ時間はどのくらいですか？



項目	回答数	割合
0分	9	30.0
～1時間	6	20.0
～2時間	3	10.0
～3時間	0	0.0
～4時間	2	6.7
～5時間	1	3.3
～6時間	4	13.3
無回答	5	16.7
合計	30	100.0

回答結果では「0分」と答えた人は 30.0%、「1 時間以上」と答えた人は 53.3%でした。読書をする人としない人が2極化していく傾向が見られます。

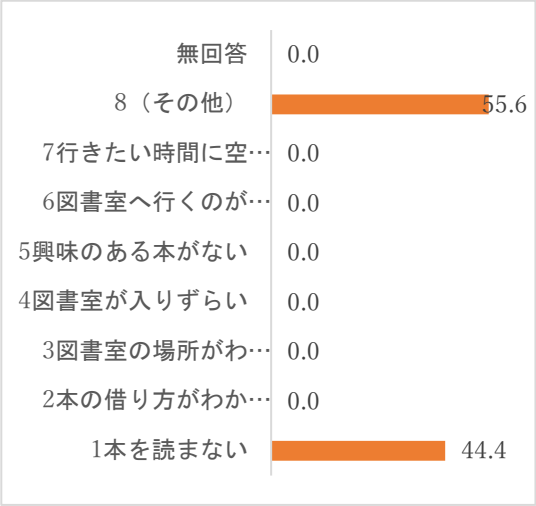
Q7　占冠村図書室で本を借りたことがありますか。



項目	回答数	割合
ある	22	73.3
ない	7	23.3
わからない	1	3.3
無回答	0	0.0
合計	30	100.0

「ある」が 73.3%と最も高くなりました。この事から本を読む人の約 73%は占冠村図書室から本を借りていることがわかります。

Q8　Q)7 で「2．ない」「3．わからない」と答えた方に、その理由をお聞きします。

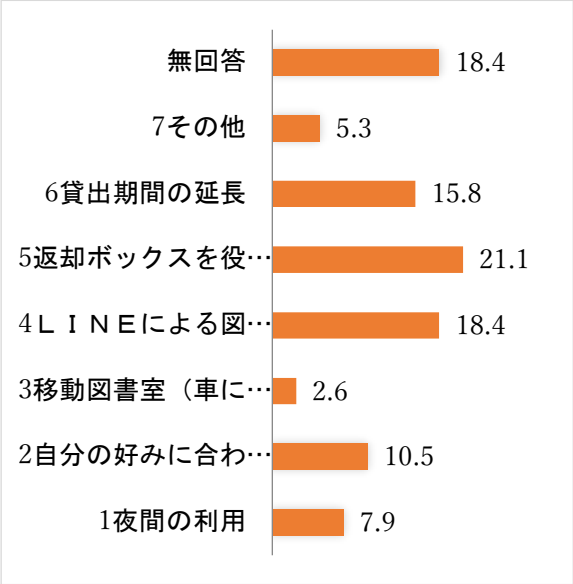


8「その他」
・なかなか時間がない
・よむ時間がない
・最近読まなくなったから
・自分の本を読むので充分

項目	回答数	割合
1 本を読まない	4	44.4
2 本の借り方がわからない	0	0.0
3 図書室の場所がわからない	0	0.0
4 図書室が入りづらい	0	0.0
5 興味のある本がない	0	0.0
6 図書室へ行くのが不便・面倒	0	0.0
7 行きたい時間に空いていない	0	0.0
8　その他	5	55.6
無回答	0	0.0
合計	9	100.0

「その他」が 55.6%と高く、理由として「読書をする時間がない」ことを挙げる人が多く、次いで「本を読まない」が 44.4%となっています。

Q9　図書室にあったらいいなと思うサービスは何ですか？

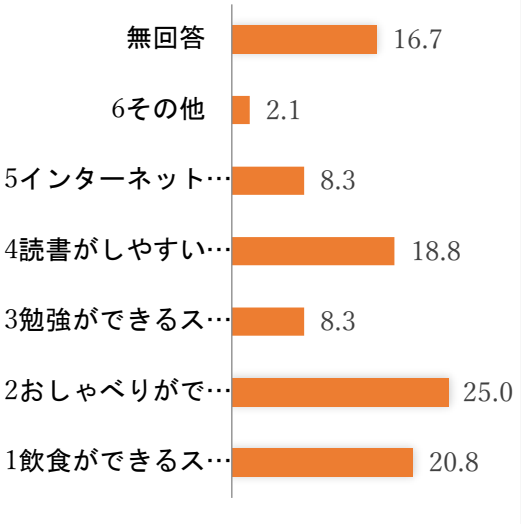


項目	回答数	割合
1 夜間の利用	3	7.9
2 自分の好みに合わせ、おすすめ本を選んでくれる	4	10.5
3 移動図書室（車に本を積み村内を巡回）	1	2.6
4LINEによる図書室情報	7	18.4
5 返却ボックスを役場に設置（土日、夜間返却可）	8	21.1
6 貸出期間の延長	6	15.8
7 その他	2	5.3
8 無回答	7	18.4
合計	38	100.0

4「LINE」～村の公式 LINE を利用
6「貸出期間の延長」～新刊ではないもの
7「その他」～貸出期間を過ぎた場合の対応

「返却ボックスを役場に設置（土日、夜間返却可）」が 21.1%と最も高くなりました。利用者増を図るために、利用者の利便性を向上させる取り組みを進めていく必要があります。

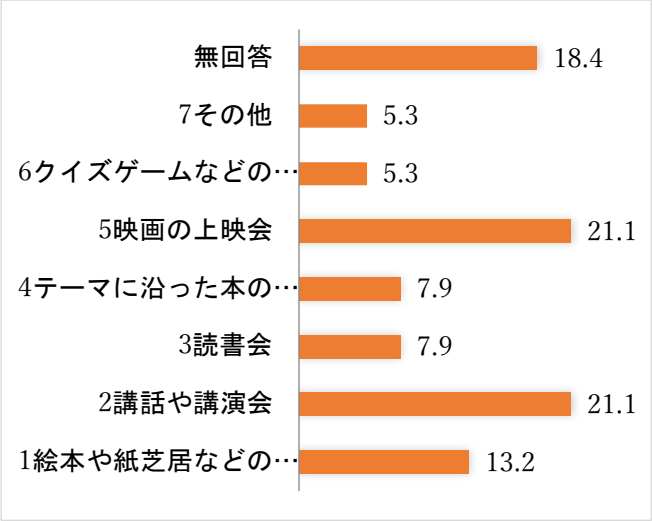
Q10　これがあれば図書室を利用したくなる！というものを選んでください。



項目	回答数	割合
1 飲食ができるスペース	10	20.8
2 おしゃべりができるスペース	12	25.0
3 勉強ができるスペース	4	8.3
4 読書がしやすいイス	9	18.8
5 インターネットができるパソコン	4	8.3
6 その他	1	2.1
無回答	8	16.7
合計	48	100.0

「飲食ができるスペース」「おしゃべりができるスペース」があわせ 45.8％となり、フリースペースを設置することで、利用者の満足度が高くなることが考えられます。

Q11　図書室でどんなイベントをしてほしいですか。



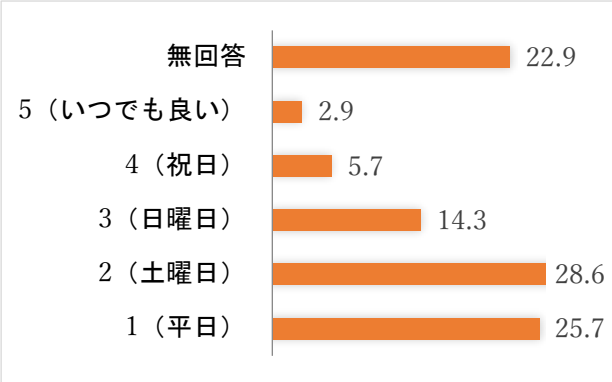
項目	回答数	割合
1 絵本や紙芝居などの読み聞かせ	5	13.2
2 講話や講演会	8	21.1
3 読書会	3	7.9
4 テーマに沿った本の展示	3	7.9
5 映画の上映会	8	21.1
6 クイズゲームなどのレクリエーション	2	5.3
7 その他	2	5.3
無回答	7	18.4
合計	38	100.0

「講話や講演会」「映画の上映会」が最も多く 21.1%、「読み聞かせ」が 13.2%という結果になりました。利用者は読書に限らないイベントも望んでいることが考えられます。今後のイベント企画の参考とします。

Q12　イベントに参加しやすい曜日や時間帯はいつですか？

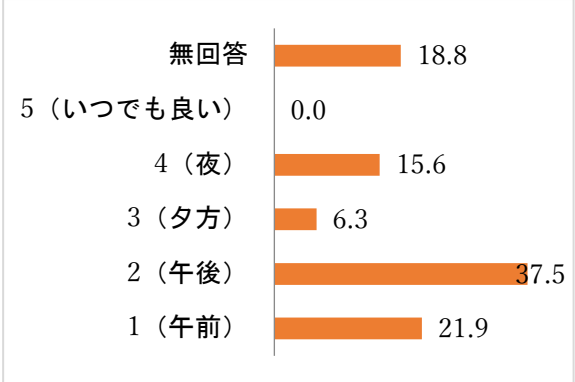
【曜日】

1（平日）	9	25.7
2（土曜日）	10	28.6
3（日曜日）	5	14.3
4（祝日）	2	5.7
5（いつでも良い）	1	2.9
無回答	8	22.9
合計	35	100.0



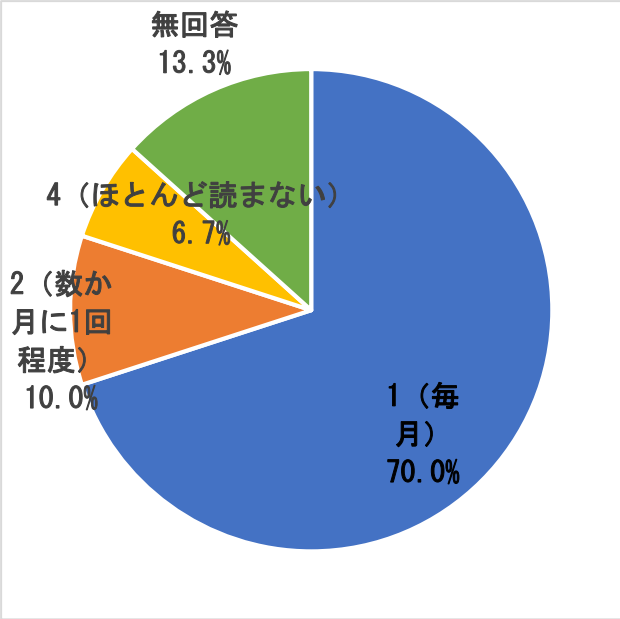
【時間帯】

1（午前）	7	21.9
2（午後）	12	37.5
3（夕方）	2	6.3
4（夜）	5	15.6
5（いつでも良い）	0	0.0
無回答	6	18.8
合計	32	100.0



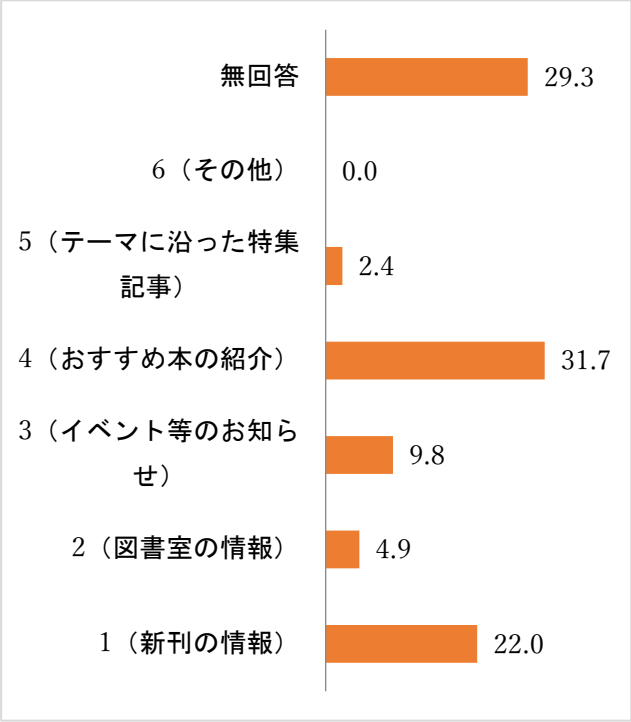
曜日では「土曜日」が 28.1%、時間帯では「午後」が 37.5%と最も多い。曜日に関しては「平日」と「日曜」の割合も多いので、参加者の層に合わせ開催日を設定することで、多くの参加者の確保につなげられると考えられます。

Q13　図書だより（毎月発行。行政区回覧で周知）についてお聞きします。



【どれくらい読んでいるか】

項目	回答数	割合
1（毎月）	21	70.0
2（数か月に 1 回程度）	3	10.0
3（半年に 1 回程度）	0	0.0
4（ほとんど読まない）	2	6.7
5（読まない（存在を知らない）	0	0.0
無回答	4	13.3
合計	30	100



【内容や要望】

項目	回答数	割合
1（新刊の情報）	9	22.0
2（図書室の情報）	2	4.9
3（イベント等のお知らせ）	4	9.8
4（おすすめ本の紹介）	13	31.7
5（テーマに沿った特集記事）	1	2.4
6（その他）	0	0.0
無回答	12	29.3
合計	41	100.0

【どれくらい読んでいるか】「毎月」が 70.0%と多数を占めており、多くの村民に情報を届けられていることが分かります。【内容と要望】では「おすすめ本の紹介」が最も多く 31.7%でした。現在、新刊の情報を中心に掲載していますが、図書専門員のおすすめ本を紹介するなど、村民の望む情報を伝える紙面づくりをこころがけます。

Q１４　図書室への要望や意見がありましたらご自由にお書きください。

・冬は暖房がついていないとゆっくり本の選定もできない（足元が特に）し、じっくり読書できない。

・一人住まいの高齢者への宅配本ができればいいかな？図書室から遠方の方。

・飲食出来たり、ゆったりできるスペースあるとうれいしいです。

・読み終えた本の評価（１～５までのどれかを選ぶくらいの）を記入し、次に本を選ぶ目安にしてもらう。